



代表の坂本利彦さんと奥さまの知加子さん。知加子さんはホームページも担当

練習中の真剣な表情。目は指揮者、耳は伴奏へ集中



上達する秘訣は、丹念に歌い続けること。歌声が廊下にまで響き渡ります



右端の升水弘之さんの指揮で伴奏が始まり、練習会場はオペラの舞台上に早変わり！

て全員に役が回るとなれば、それぞれの意欲もわき、緊張感をもって練習に臨みます。そうした目配りは、会社組織と一緒だという坂本さん。代表とはいっても、練習中は指導者に任せて口は出さないのも基本。「少し引いたところから全

体を見る。仕事のように打ち込みすぎるといけない。グループをまとめるのには、バランス感覚も大切なようです。「僕自身は怠け者で、のほほんとしていますよ」と笑う坂本さん。地域に密着した音楽活動を続け、今日も明日もと、音楽に明け暮れる人生をグ

ループの仲間とともに楽しんでいます。音楽でつながる声と心メンバーの会への参加理由は「オペラが好きで」「まったくの素人だけどオペラに興味を持つて」など。練習では、親子ほど年齢が違う男女が一緒に

腕を組んで歌うなど、オペラならではの楽しい光景も。また、この日が初めてという見学者には、ベテランの方たちが肩を寄せ一緒に歌ってくれます。音楽が好きなのはみんな仲間、声を合わせて歌うことで心も結びつく、それが音楽の力なのでしょう。

「アッハッハ、アッハッハ…」とピアノの伴奏に乗って聞こえてくる大勢の歌声。東京都府中市で活動している「声楽研究会」が、来年3月の公演に向けて練習している、オペレッタ「こうもり」の二場面です。ソリストは7月にオーディションで選んでいます。メンバーにはオペラ好きという共通点があるだけで、音楽を専門に学んだことのない人がほとんど。でも、好きこそ物の上手なれという言葉通り、この日の練習は本格的、迫力満点でした。

3月の公演に先駆けて、2〜3カ月に1度、NPO団体が主催するコンサートや地域文化祭などで、練習中のオペラの抜粋部分を上演。さまざまな機会を利用して練習の成果を発表し、上質なオペラを作り上げていきます。この会の代表を務めるのは、坂本利彦さん(70歳)。子供のころからピアノを習い、専門の道へは進まなかったも

# 全員が舞台に立つ 手作りオペラで夢をかなえる 声楽研究会

一演目を一年かけて練習し、目指すは3月の大舞台。平成5年から続くオペラサークル「声楽研究会」の成功の秘訣は、メンバーの情熱とそれを支える代表者にありました。

の、音楽とともに人生を歩んできた現役のピアニストで、現在は府中オペラ連盟代表のほか、いくつかのコーラスグループを運営。奥さまの知加子さんも、声楽研究会をはじめ、さまざまな音楽グループでピアノ伴奏を担当し、夫婦そろって音楽の道歩んでいます。**メンバー全員に発表の場を**

ます。「オペラの場合、ソリストはどいうしても全員に役はつかないので、補欠やコーラスに回ってもらうこともありますが、小さな発表会などでは配役を替え、全員に発表の場を経験してもらおうようにしています」。1年を通し

声楽研究会の練習風景。この日は本番さながらに衣装をまとい、教室が小さな劇場のよう



**契約編集員発**  
皆さんのきれいな歌声に感動し、こちらまで体を揺らしながら聴き入ってしまった。一つ一ついいねいに、かつ、優しい顔でビシビシ指導する指揮者の升水さん。全身の力を振り絞って歌う皆さん。休憩中に話を伺ったときの、うっすら光る汗と、すがすがしい表情が印象的でした。

**Profile Data**  
**声楽研究会**  
 代表者 ▶ 坂本利彦  
 ジャンル ▶ 文化教育  
 活動拠点 ▶ 府中市片町文化センター他  
 会員数 ▶ 20人  
 問い合わせ ▶ <http://www.boys-girls.jp/g00289/>